

平成25年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	みやき町立中原小学校		
2 所在地	佐賀県三養基郡みやき町大字原古賀1364番地2		
3 校長名	緒方 克成		
4 学級数 児童生徒数	15学級 413人	5 実施学年 児童生徒数	全学年 413人

6 取組のねらい

- 年齢・性別・障がいのあるなしなどによる違いを認め合いながら、地域の方々、中原中学校、中原特別支援学校、隣接の幼稚園、高齢者との交流体験を通して、自分たちにできることや今後のふれ合い、交流について考えさせる。
- 教職員が授業のUD化を仕組むことにより、児童に「分かる・できる」喜びを味わわせることのできる授業の工夫・改善を図る。
- みやき町・教育委員会と連携をしながら、学校施設・設備のUD化の見直しを図る。

7 取組の実際

（1） 中原特別支援学校との交流体験

① 中原っ子集会（11月8日 2校時 体育館 全校児童参加）

年1回、中原特別支援学校との交流体験を実施している。目的は、楽しい集会活動をしながらお互いにふれ合うことで、友だち意識を育てることとしている。事前に代表委員会で、テーマや内容について話し合いをもち、今年度のテーマは『笑顔あふれる中原っ子集会』に決まり、体育館の飾り付け、全員で歌う歌、出し物、入退場の工夫などについて各学年や委員会で協力しながら行うことができた。

中原特別支援学校の
出し物（和太鼓演奏）



3年生の出し物
（ナーミー活動に参加して）







退場の様子
（アーチと拍手で見送る）



② 居住地交流（年間を通して：各学年、随時）

年間を通して、中原校区に在住している中原特別支援学校の児童と、その同学年にあたる本校児童との交流を学年（学級）で実施している。ダンス、ゲーム、工作、風船バレーなど障がいのある児童のことを考えながら楽しく活動をする事ができた。

1年（リズムダンス）	2年（ゲーム）	3年（工作）	6年（風船バレー）
			

（2） 中原幼稚園との交流体験（5年生 2クラス 年6回程度）

本校に隣接している中原幼稚園の年長組と5年生が年間を通して、交流をしている。園・学校の紹介、合同での遊び、発表会、レクリエーションを通して来年度入学してくる幼児たちとの交流を深めた。紹介や遊びを考える上で、年長組の幼児の発達段階を意識しての内容、活動ができていた。この交流を数回行っていくうちに、顔や名前を覚えて1日入学体験での学校案内の引率も5年生が行うことで、幼児の入学前の不安解消にもつながっている。

園庭でのサッカー遊び	本校体育館でのゲーム	風船運びリレー
		

（3） 地域の方との交流体験

① 平和集会（8月6日 全校登校日 全校児童）

本校では毎年、戦争の悲惨さや平和の大切さを学ぶために、広島の前爆の日（8月6日）に合わせて全校で集会を開いている。児童たちは低学年、中学年、高学年に分かれ、中原校区老人クラブ連合会の会員3人の戦争体験について講話を聞いている。この集会では、児童が司会進行をし、戦争の空襲や戦時中の生活などについて真剣に耳を傾けていた。このあとは、各教室に戻って感想文を各自書いてそれぞれの講師の方へ届けている。戦争の怖さだけでなく、当時の生活の厳しさを感じることで、今自分たちが平和で豊かなくらしができていることに感謝の気

持ちをもつことができた。

② ナーミー活動（3年生 2クラス 年2回：6月・10月）

「中原ふれあい教育を進める会」（中原小・中原中・中原特別支援学校・中原校区老人連合会・民生児童委員・にこにこクラブ：旧婦人会の方々）が参加して、西九州大学のボランティアの学生さんの協力により、異校種・異年齢によるゲームを通してふれあい活動・交流を行った。

会場の中原体育館は、熱気いっぱい、笑顔いっぱいになった。司会・進行も各学校が持ち回りでを行い、自主性も育っている。このような活動は今年度第48回・第49回になり、今後も継続されていくと思う。

【参加した3年生の感想から】

○ナーミー活動に参加しました。楽しいゲームがたくさんありました。老人クラブの人やにこにこクラブ、そして中原特別支援学校の人たちも来ていらっしかったです。その人たちとなかよしになれて、とてもうれしかったです。もっとたくさんの人たちとなかよくなりたいとぼくは思いました。（Y・Y）

○わたしたちのグループは最初に卓球バレーをしました。いろいろな人たちと交流して友だちになれたので、とてもうれしかったです。ゲームやレクレーションをたくさんしたので楽しかったです。（K・A）

座り風船バレー	フルーツバスケット	卓球バレー
		

③ もちつき大会（12月4日 4・5年生）

5年生が6月に「田植え」、10月に「稲刈り」そして12月には収穫した餅米を4年生、保護者、地域の方々（老人クラブ、にこにこクラブ、プールの監視員さん、JA中原支所、JA青年部）と一緒に「もちつき大会」を行った。自分たちだけではできないもちつきを、多くの方々の協力を得ながら身をもって体感できる貴重な行事である。つきあげたおもち本校児童だけでなく、日頃お世話になっている地域の方々にも食べていただいた。

④ 「地域安全マップ」づくり（10月26日 1～6年希望者 PTA 佐賀県警生活安全課 学生防犯ボランティア：さがんせん隊守るんじゃー）
まずは、防犯ボランティアの学生から「犯罪機会論」を紹介してもら

い、それに基づいた、「環境」と「場所」の観点による「地域安全マップ」づくりが県内で初めて本校で開催された。土曜日ということもあって児童の参加者は少数であったが、保護者、民生児童委員、区長さんをはじめ約50名近くの方と、学校の周辺を歩いて観察し、インタビューや記録をしながら「地域安全マップ」づくりに取り組んだ。この実践を通して、今まで気づけなかった危険な場所や犯罪が起こりやすい場所の発見、安全性が高い場所等に気づくことができた。このマップについては全校の昇降口に掲示したり、全校児童の前で児童が説明したり、新聞に掲載されたりして啓発活動につながった。

学生ボランティアの説明	実際に歩いている観察・記録	地域安全マップの完成
		

(4) 高齢者の方との交流体験

① 「昔の遊び」について（2月3日 1年生）

中原校区老人クラブ連合会の会員の方（約30名）の指導、協力により昔遊んでいた道具を学校に持ってきていただき、1年生が老人クラブの方々と10のコーナーを設けて、種目ごとに遊びを体験することができた。種目は、めんこ・こま回し、紙飛行機、竹とんぼ、ヨーヨー、ゴム跳び、あやとり、お手玉、羽子板、けん玉があり、初めて体験する遊びがほとんどで、手作りの道具のありがたさや今の遊びとの違いがわかり、時間が経つにつれて、高齢者の方との笑顔での遊びや心の交流もできていた。

② 「昔のくらしや生活の様子」について（2月3日 3年生）

1年生と同日に3年生は社会科の授業の一環として、老人クラブの方に当時使用していた生活道具や生活の様子について、説明をしてもらったり体験をさせていただいたりした。現在では使用していない道具を実際に見たり、使用させてもらったりしたことで、今の自分たちの生活様式との違いや当時の生活での苦労や工夫などについて感動している児童も多かった。また、陳列できない生活道具については、写真等で紹介もいただき、地域の方々への感謝の気持ちも高まった。

1年（昔遊び）①	1年（昔遊び）②	3年（昔のくらし）①	3年（昔のくらし）②
			

（５） 「授業のユニバーサルデザイン化」 （UDL） の取り組み

① 職員研修（全職員）

夏季休業中の職員研修の時間、本校教諭（山下健教諭：平成23・24年度 福岡教育大学教職大学院での生徒指導・教育相談コース終了）の2年間の研修成果をもとに、「学びのユニバーサルデザインを授業に活かす」をテーマに研修を実施した。とくに、特別な教育的支援が必要な児童が在籍する通常学級のUD授業の実践やこれまでの取り組みとしてのUDL（Universal Design for Learning）授業の紹介等を聴いて、普段の授業実践を少し見直すだけでも、児童の学び方に寄り添った授業に変えられることやICT機器（電子黒板・タブレットPCなど）を導入することによるメリット、キーワードを目立たせる板書、ノート指導をする際の評価や掲示物の工夫などについて情報交換ができた。この研修成果は2学期以降の授業に非常に役に立っている。





② 教育環境のUD

○テニスボールつけ

昨年度より、1年生から順に、教室内の机・椅子にテニスボールをつけている。授業中、椅子を動かしたときの騒音がなく静かな教室環境で授業が展開できている。今年度も2年生と特別支援学級の教室内の机・椅子につけることができた。次年度以降も随時、上学年に設置していく予定である。

③ 学校施設のUD化

今年度の夏季休業中、各棟のトイレの洋式化が実現した。和式を1個残して、すべて洋式トイレになり、多目的トイレや各階段には手すりも整備された。児童は身近にUDを感じることができ、UDがすべての人にとって安全・安心で、利用しやすい環境（空間・施設）であることを体感できている。

職員研修（UDL）	テニスボールつけ	ICT利活用	洋式トイレ
			

8 取組の成果と課題

〈成果〉

- 幼稚園から高齢者、異校種の幼児・児童・生徒と交流活動を通して、地域社会との連携を深めることができた。それぞれの発達段階や苦勞、努力、生きざまを知ることができ、全校児童が相手を思いやる心や尊敬する心を育むことにつながった。
- 集会や交流を行う場合、児童が中心となって学級活動や代表委員会などで話し合いをした。常に相手意識を持ちながら、自分たちの思いや達成感、満足感、学習効果を高めることができた。
- ユニバーサルデザイン教育に関しては、職員研修や日常の教育活動を通して、児童全員が活躍する授業や体験活動について「少しだけ変えてみる」（マイナーチェンジ）の意識ができる職員が増えてきた。

〈課題〉

- 学校全体での交流は「中原っ子集会」、「平和集会」であったが、2年生と6年生については、学年での交流ができなかった。今後、教育計画、学校行事、単元計画の見直しを進めて、どの学年にもユニバーサルデザイン教育が計画的、継続的に学習できるようにしていきたい。
- 交流体験活動を異校種、外部の団体等と実施していく上で、事前打ち合わせの時間の確保が現状では不十分である。校内での連携・調整役としてのコーディネーターの設置が急務である。
- 授業のUD化について少しずつ取組を始めているが、多忙化のため十分な職員研修ができていない。講師の招へいや出張等での予算があると研修の機会も増えていくと考えられる。